8

札幌市および札幌近郊の犬の抗*Borrelia*抗体保有状況の解析

○中島永成[1)]，池川晃世[1)]，松本高太郎[1)]，市川康明[2)]，猪熊壽[1)]（[1)] 帯広畜産大学・臨床獣医，[2)] メリアル・ジャパン（株））

Analysis of anti-*Borrelia* antibodies in dogs in Sapporo and surrounded area, Hokkaido, Japan. Nakajima, N., Ikegawa, A., Matsumoto, K., Ichikawa, Y. and Inokuma, H.

犬のライム病については，*Borrelia garinii* 感染により神経症状を呈した札幌市内の2症例が2011年に報告されている．しかし，犬では遊走性紅斑が認められないこと，および診断体制が整備されていないことから確定診断されるものが少なく，犬の*Borrelia*感染状況には不明な点が多い．これまで，我々は札幌市内に飼育される健常犬から抗*Borrelia*抗体を検出した（第65回日本衛生動物学会）．今回，さらに調査頭数と範囲を拡大し，犬の住所，飼育環境，マダニ寄生歴，性別等を飼主から聞き取り，*Borrelia*抗体保有状況を解析した．血清は2012～14年に札幌市の3動物病院に来院した犬314頭から無作為に採取し，抗*Borrelia* IgG抗体をELISA (Borrelia Dog IgG, ELISA Kit, recomWell, Mikrogen)により検出した．擬陽性および陽性と判定された検体を抗体保有犬とし，その後の解析に供した．抗体保有率は全体で10.8%であり，いずれもライム病を疑わせる臨床症状はみられなかった．住所別では札幌市中心部8.2%と周辺部14.5%，飼育環境別では屋外14.3%と室内9.9%，マダニ寄生歴別では寄生歴有16.7%，無7.8%，不明12.6%，また性別では雄10.4%，雌11.7%であったが，いずれも有意差はみられなかった．室内飼育であっても，あるいはマダニに寄生されたことが無いと思っていても，犬は*Borrelia*に暴露されている可能性があると考えられた．